

昭和 43 年、大阪の小路幼稚園園長、井上文克先生の援助で、幼稚園の漢字教育が始まったものの、初めは、先生方のための漢字指導の拠り所となる何の手引き書も用意していなかった。

単に“漢字で教える”だけのことから、その原理さえ解れば、あとは何もいらぬはずである。具体的な手引き書など、かえって煩しさを加えるだけだ、と私は思っていたのである。

つまり、「今まで幼児の耳に対して言葉だけで行なってきた教育を、同時に、漢字を使って、幼児の目にも訴えなさい」というだけのことであるから、それだけ解っていれば簡単に出来るものと、真実そう思っていたのである。

ところが、現場の先生方にとっては、それだけでは安心して実践できないものである、ということが次第に判って来た。それだけでは不安でたまらないのである。

それで、実践幼稚園の園長先生方の出資により、幼文社なる会社が作られ、そこから教科書としての“漢字の絵本”を刊行すると共に、その指導法をも含めた解説書の刊行を企画することになった。

たまたま、その年『石井方式・漢字の覚え方』を刊行してくれた学燈

社がこれを引き受けてくれて、書名も『石井方式・漢字の教え方』と名づけて、翌 44 年 7 月、刊行の運びになったのである。

この第三巻は、この『石井方式・漢字の教え方』をベースに、これに「母と子の新聞」に昭和 56 年 4 月以来二年間にわたって連載した母親教室と、その質問欄とを加えたものである。

“知っておきたい 21 のポイント”はこの母親教室の記事で、質問欄は『教え方』の質問編に加えてこれを一本にした。母親や先生方にとっては、実際指導上最も頼りになる巻だと思う。

石井 勲